



あゆみ

青梅市立河辺小学校
令和5年度2月号
青梅市立河辺小学校

学校便り No. 673
令和6年2月2日

小さな美術館 ～展覧会～

早いもので、もう2月。学校では3学期があつという間に過ぎてしまうことを表して、「1月はいってしまう、2月はにげてしまう、3月はさってしまう」とよく言われます。学年の総まとめであり、次年度への助走期間でもある3学期。一日一日を大切に、有意義に過ごしていきたいと考えています。

さて、1月26日・27日の展覧会には、たくさんの皆様にご来校いただき、ありがとうございました。本校としては、新型コロナウイルス感染症の影響で音楽会を中止し、代替として急遽開催した令和2年度以来、3年ぶりの展覧会となりました。

1学期から、「今年は展覧会」と児童に伝えてきたこともあり、どの学年の児童も「良い作品をつくろう」と、図工の授業を中心に、思いをこめて取り組んできました。

「児童の頑張りをどのように伝えていくか」を検討し、今回の展覧会では、6年生による作品ガイド活動、メイキング動画展示などの取組を企画しました。

6年生は担任と児童で、「小学校生活の集大成となるような展覧会にしよう」とオープニングを飾る「ミニ演劇」も準備してくれました。短い練習期間でしたが、さすが最高学年と感じる企画力と集中力で、「展覧会会場の中」という難しい条件での劇を成功させてくれました。ガイド活動も、図工担当教員から「各学年での作品制作の意図」を改めて学び、自身が下学年の頃に経験した作品づくりなども思い出しながら、一人一端末のタブレットを駆使してガイド資料を作成しました。

児童鑑賞日、6年生がタブレットを片手に下学年に丁寧に話す姿はとても微笑ましいものでした。保護者鑑賞日には、緊張しながらも来場してくださった方々に笑顔で対応しようと努め、立派なガイド役を務めてくれました。私自身も多くのガイドを拝聴してそう感じましたが、ご来場いただいた方々からも、「6年生ガイドのおかげで、作品がどのような意図で作られているのがよくわかった」「作品の素晴らしさが伝わった」という感想をたくさんいただきました。

図工の授業は、2年生以上は図工専科が、1年生は経験豊かな講師が担当し、「児童が自らの思いを存分に表現できる活動をどうつくっていくか」と指導方法を工夫した授業を展開しています。今年は展覧会に向け、各学年の担任も1学期から児童の頑張っている制作活動の様子を計画的に記録し、時間をかけてメイキング動画を作成しました。会場準備や片付けは6年生と5年生の児童が担当し、教職員・スタッフと共に一生懸命作業に取り組んでくれました。保護者・地域の皆様には、たくさんご来場いただき、たくさんの称賛のお声を子供たち・教職員におかけいただきました。

展覧会で、子供たちを中心に河辺小学校が一つになることができ、本当にうれしく思っています。

河辺小では公開する形の学校行事を、「努力の成果や一生懸命活動する様子を、互いに認め合ったり、保護者・地域の皆様から褒めて価値づけていただいたりすることで、児童の向上心や自己肯定感を育む、重要な教育活動」と位置付けています。

今後も、結果や成果だけでなく、子供たちが「学びの過程」で学んだことをしっかり価値づけ、称賛していただける機会を設けていけるよう、努めていきたいと思っています。